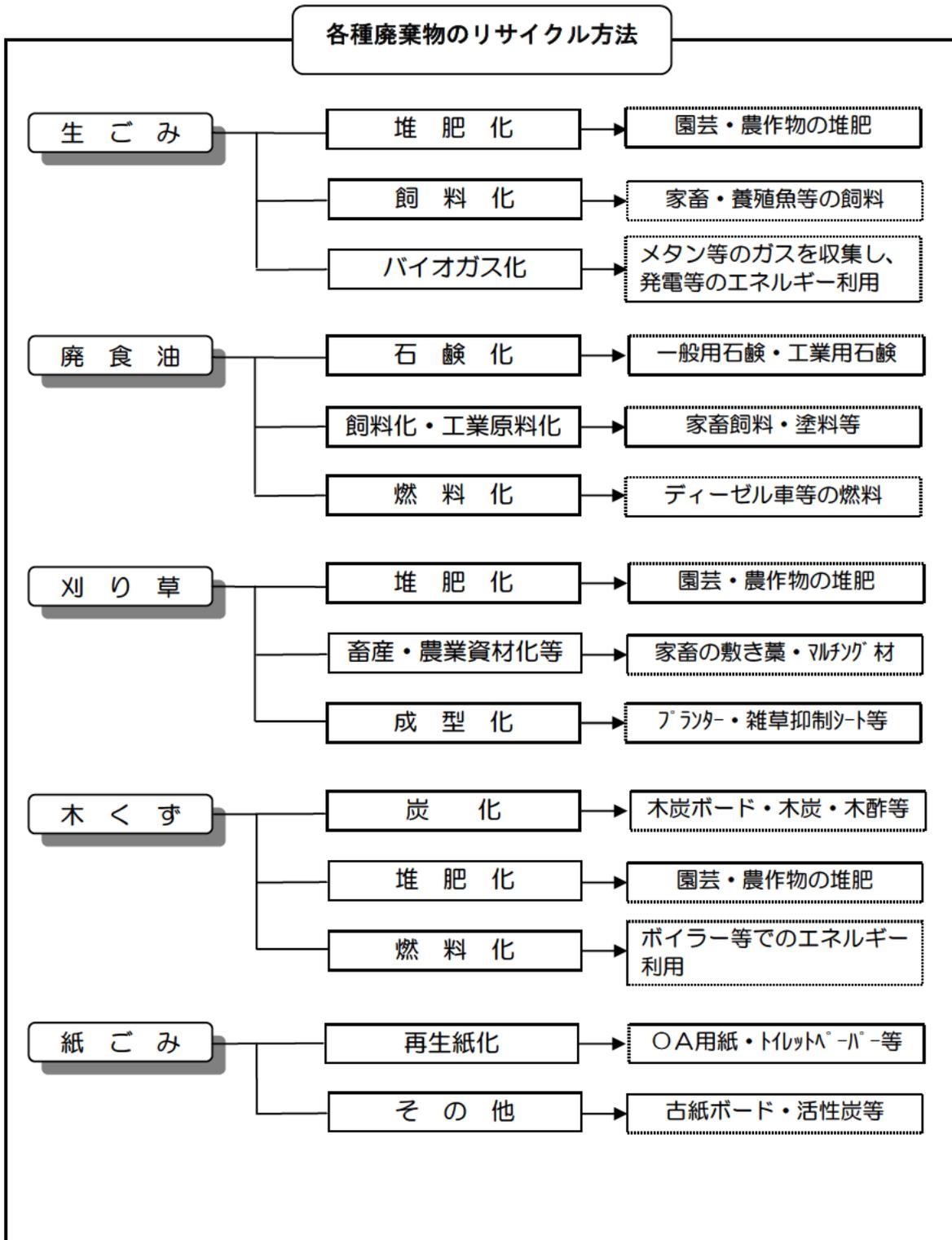


1

廃棄物のリサイクル

廃棄物のリサイクルについては資源化やエネルギー化等様々な方法が研究されており、多くの方法が実証されています。これらの方法の中から現在、三重県内において実現の可能性が高いと考えられるものは以下のとおりです。



廃棄物のリサイクルを行うためには廃棄物の種類や排出量、排出者等に応じた効率的な運営を計画する必要があります。このためには、実施主体や他者との連携、一般市場等を考慮した運営システムの構築が前提となります。

本書においては、廃棄物の循環システムを以下に示すリサイクルパターンに基づいて検討し、三重県における効率的、かつ実施可能な事業の提案を行います。

(1) 個別対応型

排出者と利用者が同じで、自らが生成物を生産し利用するパターンです。

このパターンは、収集・運搬に要する費用が必要無く、利用者自らが、廃棄物を排出するため、分別等が徹底されます。また、小さなサイクルの中で廃棄物が循環することから、流通等に必要となるエネルギーを最小限に留めることができます。このパターンでは、学校やNPO等の小規模な活動や多量排出者の企業が自社でリサイクル施設等を持つことなどが考えられます。

(2) 連携型

排出者と利用者は異なるものの、特定の排出者と特定の利用者が互いに連携することで効率的なリサイクルを行うパターンです。

連携を図ることで安定的な廃棄物および生成品の需要先を確保することが可能になります。また、排出者や規模に応じて廃棄物の分別の度合いが異なる場合があるため、事業主体者が中心となり、情報の共有などのネットワーク体制を構築し、排出者、利用者との合意のもとに事業を展開することが重要となります。

(3) 生産型

特定の事業所から安定した質・量の廃棄物を引き取って大量生産を行い、生成品を一般市場に販売するパターンです。

不特定多数の利用者を対象とするため、品質の保持と製品の信頼性が不可欠となります。また、効率的な大量生産を行うことで市場拡大が可能と考えられますが、市況によっては運営が不安定となる要素もあります。

